

小・中学校9年間を見据えた英語教育の系統ある授業づくり

学校の取組

日常の授業改善

- 授業の中で習った英語をアウトプットする機会を、従来より多く設定
- 他者とのコミュニケーションを重視
- 一人一台端末、デジタル教科書の活用し個に合わせた最適な学習の展開
- 伴走チームによる授業づくり伴走



専門性の高い授業

- 小学校英語専科教員による授業
小学校段階から、中学校免許や資格を持つ教員による専門性の高い授業を展開
- ALTの活用
5名のALTを今後も全小中学校に配置し、実際の会話を踏まえた学習展開や、ネイティブのイントネーションを学ぶ



中学校

小学校

市の取組

英語教員の授業力向上

- 小学校英語専科担当者会
小学校英語専科教員が月1回の定例をもち、実践交流や協議を通し、市内全校での統一した指導と、より専門性の高い授業づくりを行うことを目的とする。
- グローバル化に対応するための研修
小中の英語教員が集い、年6回外部講師を招聘した研修や研究授業をとおして、小中が一貫した使える英語力を身につけるための授業づくりを目的とする。



英語を使う機会の設定

- 英語体験学習プログラム
(R7よりリニューアル)
 - ・市内小学5年生から中学3年生が参加
 - ・大学生や留学生との英語での交流
 - ・異学年、異文化に触れる体験
 - ・実践的なコミュニケーション
- 海外の学校との交流



授業改善が進んでいる学校の授業例 ～A中学校の取組から～

授業の導入



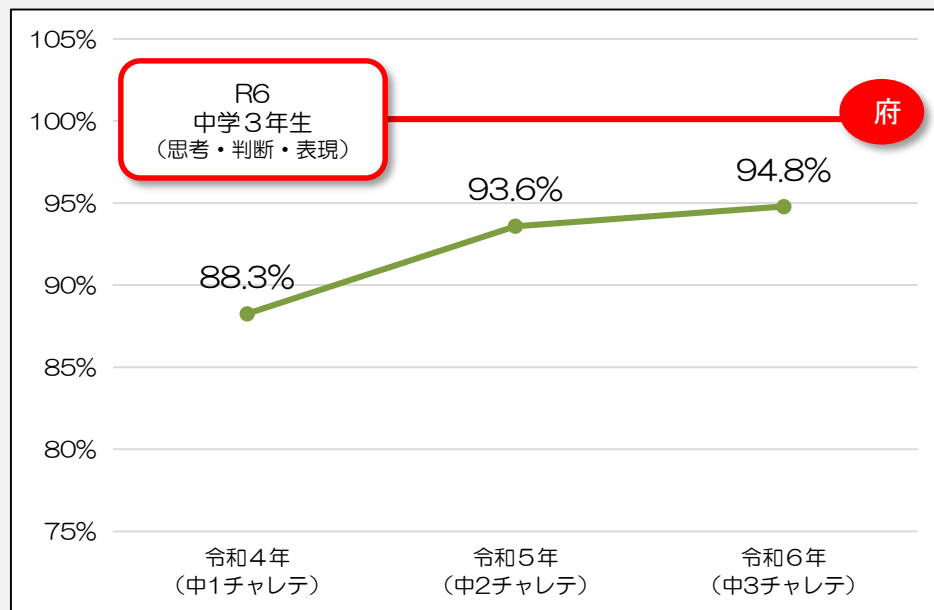
A中学校の英語科の数値結果

具体的な授業改善の内容

○単元の目的や
「何ができるようになるか」を
生徒と共有

○アウトプットを重視した
指導計画(ALTの活用等)

○生徒が学び方を選択する
環境づくり
など



質問事項	自校	大阪府	全国
授業では、原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	74.5	70.5	68.8
授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	86.6	83.4	82.4
			3

今年度の英語体験学習プログラムの様子(7月12日開催)

参加:小学生15名 中学生21名 保護者1名 教職員1名

- 英語を使う場の提供
- 英語に関わるきっかけづくり
- 大学を知る体験



本年度の英語体験学習プログラムでは、追手門学院大学の学生が考えたプログラム(R7は『EXPO』)を、市内の小中学生が多くの大学生や留学生と体験。

参加した児童・生徒からは「英語を楽しく使えた」「外国人と交流できたことが貴重だった」等の感想を述べており、言語だけでなく異文化への理解や関心が大きく高まりました。英語を身近に感じたことで「もっと話せるようになりたい」「将来の夢が広がった」と意欲を持つ児童・生徒も見られ、学びの動機付けにもつながっています。